

令和2年度 学校運営等に関する評価書

学校名

和歌山市立岡崎小学校

作成日

令和 3年 2月 15日

1 教育目標

強いからだと豊かな心を養い、自ら課題を求め、よりよく生きようとする子どもの育成

2 学校自己評価についてのご意見

	確かな学力の向上	豊かな心の育成	健やかな体の育成	地域とともにある学校
指標	○県学習到達度調査において、特に「書く」領域での県平均値以上を目指す。 ○宿題の提出率、90%以上を目指す。	○道徳の授業が、「楽しい」「どちらかと言えば楽しい」と答える児童90%以上を目指す。 ○縦割りでの活動を、より増やしていく。	○毎日朝ごはんを食べてくる児童95%以上を目指す。 ○体力の向上を図る取組を増やしていく。	○保護者へのアンケートで、「教育活動や子どもの様子を分かりやすく知らせている」について80%以上を目指す。 ○ゲストティーチャー等、多くの方々に学校に来ていただき、地域に開かれた学校を目指す。
重点目標に対する	○子どもを主体とした、授業づくりは大切なことなので、今後も研修を深めてもらいたい。	○道徳教育を柱とした教育活動は、人権意識を高め、自他共に大切にす教育につながるので、縦割り活動等と共に続けてもらいたい。	○コロナウィルス感染症予防のためのマスクの着用、手洗い、換気等の徹底を継続しながら、体力向上に向けた取組を行ってもらいたい。	○家庭・地域との連携を深めるために、積極的に情報を発信していくことは大切だと考える。
取組状況に対する	○コロナ禍においても授業時数の確保、活動内容の精選や充実によく取り組んでいた。	○以前から学校全体で準備してきた研究会を実施できなかったことは極めて残念であった。 ○道徳の授業について、児童は興味・関心をもって授業を受けることができていたと思います。	○児童にも食の大切さを伝えていくとともに、保護者への啓発も同時に行ってほしい。	○HPに学校だより等の掲載を素早く行うことで、様々な取組を積極的に発信ができています。
取組の適切さの検証結果	○授業において、目当ての提示、授業のまとめ・振り返り等「授業づくり基礎基本3か条」を意識した取組が行えた。今後、授業改善に向けたさらなる積極的な研究・研修を行ってもらいたい。 ○様々な学習の中で、ペアワーク、グループワークを積極的に取り入れた子供を主体とした授業を行っていた。	○文科省の調査官を招いた研修等、道徳教育に対する積極的かつ真摯な取組により、教員(特に若い教員)の力が伸長し、児童たちにも好影響を与えている。	○宿題の提出や朝食については、家庭の教育力が重要なので、今後どのように協力を得ていけばよいのかについて考えていく必要がある。	○一部に生徒数、教員数、行事予定等の更新されていない部分が散見されるのは残念である
改善年度に向けての意見	○教科担任制を見据えた、学校独自の高学年における一部教科の教科担任の授業は児童たちに好影響を与えていると感じられる。来年度も是非取り組んでもらいたい。 ○読書タイムについて、読解力の向上につながっていくので、継続できればよいのではないか。	○道徳の年間指導計画とともに、学校全体の教育計画を見直し、教育活動伝隊で児童を育てていけるようになれば良いのではないか。 ○道徳の教育目標に向かって、児童が主体的に取り組んでいけるよう、引き続き授業力向上に努めたり、授業形態の工夫をしたりしていくことが大切ではないか。	○体力作りの取組を継続し、児童に運動する楽しさや大切さを感じさせたい。 ○生活のリズムを整える大切さを、保護者に働きかけていく。 ○情報モラルについて、正しい知識と理解の定着を図る。	○地域人材を活用した学習や交流をしていくための組織作りと、積極的に地域の方々への声かけをしていくことが大切ではないか。

3 その他のご意見

○外国語教育やプログラミング教育について、スムーズに教育活動を進めていくため、現職教育で研修を深めてもらいたい。
○全体的には、児童は落ち着いて学校生活を送っている。しかし、不登校や保健室登校で授業に集中できていない児童への対応が課題になっている。児童一人一人に応じた教育活動の充実を教員一丸となって取り組んでもらいたい。
○多様な形態による学習が実現できるよう、教員数の確保ができるようにしてほしい。
○児童数増加に伴い、新教室を含めた学習環境の整備が重要課題であるので、教育委員会と連携を密にして進めてもらいたい。